

## 原老柳門譜

田崎 哲郎

筆者は医家の門人帳に関心を持っているが、原老柳の門人帳『原老柳門譜』（以下『門譜』という）が、西宮市立中央図書館にあるとの教示を得た。

原老柳については、松尾耕三『近世名医伝』（『蘭学伝記資料』青史社 昭和五五年所収）にその小伝があり、『日本人名大事典』（平凡社 昭和五四年復刻）などはそれによって書いてある。

老柳は通称佐一郎、摂津西宮の人、播州の村上玄齡に医学を学び、伊丹で開業していたが、新宮涼庭の知遇を得て浪華に居を移した。高良齋、斎藤方策、緒方洪庵らに並んで業を行い、頼山陽、篠崎小竹とは最も親しかったという。安政元年（一八五四）七二歳で没した。

『門譜』の題言の筆者は「備前 篠野隆壽生」となっているが、『門譜』中の「備前岡山 篠野隆泉」と同一人である。同人は備前金川の著名な華岡門人難波抱節の従弟であり、篠崎小竹の筆になる墓誌が森紀久男『名医難波抱節先生（難波二郎）』昭和一六年）に収めてある。同人については知られてないので引用しておく。

竹里篠野君之墓

君諱禎、字祥公、竹里其号、称隆泉、備前医師篠野元鳳庶弟也、来遊子塾多年、又学医原翁、既帰郷、元鳳以為嗣而讓業、以其医而兼文、頗有名声、嘉永三年庚戌九月十七日俄歿、年三十一、聞訃者、莫不驚惋而惜之、葬于城東先塋之次、法号竜行院宗泉、子揮涕銘其墓曰、

嗚呼竹里、何禍之奇、銘無他語、天道無知、

跋文を書いた橋本通は、田尻佐『贈位諸賢伝』（増補版 近藤出版社 昭和五〇年）によると、上野沼田の生れ、伊丹の商人橋本紋左衛門に養われて家を嗣ぎ、篠崎小竹に経史を学び、元治元年（一八六四）禁門の変時、長州人に食料を供して捕えられ獄死したという。

記載された門人は一三二人、ただし出身地のみで氏名の記していないのが二か所、姓を欠く者が一人、出身地の記入がなく推測もしえない者が一〇人いる。出身は近畿地方の者が当然のことながら多いが、関東地方一人、四国二人、九州五人、東北地方二人、尾張二人など各地に拡がっている。なおこの『門譜』には、脱取したところがあり、五〇人程が落ちている旨の外孫松本端の附記がある。

この紹介に当り、神谷威吉郎、田辺百合江、石田祐一、安本博の各氏に示教に与った。また西宮市立中央図書館には大変お世話になった。謝意を表します。

## 原老柳門譜

門譜題言(四)

門譜成矣、老柳先生喚隆曰、嗚乎来我与、汝語蓋古之良將明士用

兵也、雖不得弗賴軍法乎、非歷數百戰而有得妙用神機於寸胸則膠柱鼓琴席上學泳焉耳、不啻無功承害取患必矣、今吾伎倆亦然矣、凡執刀圭五十年於此矣、其方法自支那囑爾以至俗間奇方苟有試効得於胸中者無不為使用矣、韓子所謂不棄牛溲馬勃也、是以投機心變月新日改猶西洋有經驗科也、故納贊吾門者能解此意得法於無法中庶玉於有成乎、隆答曰、然則田氏火牛淮陰背水拳英策於一時所謂自我古成者先生之謂也乎、先生莞爾笑曰、多益弁矣耳、以成題言、

嘉永第二歲次己酉春三月十二日

備前 篠野隆壽生識

播劔

西宮 鎌田三伯  
 尼崎 江尻千代松  
 大阪(ママ以下同じ) 山本元筑  
 深江 深江玄石  
 西宮 乙弥  
 常見太郎平  
 同 次郎平  
 同 三郎平  
 安藤多門  
 馬庭杏本  
 同弟要人  
 周平

申年廿六歲

東郡

但馬和田山

上總武佐郡本須賀  
 下総香取郡扇島 阪府  
 松浦肥前守長府  
 上州 改田  
 河内茨田  
 子劔宇和島松丸村

丹後田辺  
 奥州仙台氣仙郡  
 石劔浜田

煥齋

伊丹 上杉順太郎  
 伊丹 同 禹一郎  
 堺 池田一郎佐  
 西宮 鎌田貫吾  
 常見玄伯  
 猪口良輔

道場河原 中邨太郎熊

宇津宮 町田元耕 謙齋  
 鈴木長齋

鶴沢玄琳  
 椎名貞齋  
 元木脩吉  
 石田隆哉  
 田中太輔  
 福井東作  
 三省  
 藤井友齋  
 父榮菴  
 申年廿五歲  
 関根戰齋  
 大野玄仲  
 福原謙藏

天保九戌年

廿三歲

天保己亥

己亥五月

雲劬神門郡  
加劬能登郡安宅

佐渡加茂郡

備前兒島郡小川村

周防徳山家中

西肥田代

播州姫路

同完粟

撰劬川辺郡万善村

江戸小石川水戸邸

熊野新宮

同

撰劬 道場河原

播加茂西郡妙薬寺

讚劬高松綾郡林田

播劬揖東郡下野

芸劬

備前岡山

播州赤穂藩

子劬大洲

同瀉冗郡中田渡

大阪

中林順助

平井玄竜

安藤栄斎

岡 俊藏

長沼三禎

高尾均兼

高橋竹堂

名島元吉

大証寺流情

河口秋平

高野仙知

橘 立元

松野元良

平島勇説

中村良平

今村脩斎

白井玄沢

大野惟中

佐竹玄簡

篠野隆泉

熊谷庸夫

後藤定馬

久松真斎

上田左津見

天保十二年

播劬揖東綱干

加州金沢

越前福井畚横町

撰灘森邸

豊後杵築古市村

備前岡山

備中都宇郡津寺

豊後佐伯入津

京洛西向明神

備前岡山川嵩町

但州遠阪一里西<sup>大内村</sup>

子劬大洲北郡黒ノ田

江戸駒郡藤田邸

撰劬武庫郡西宮

土劬

京

若劬小浜

子劬今治

播州三木

越前福井東田尻邸

河劬小山

作劬英田郡福本

芳賀要人

田中大輔

加藤 勇

湧田立睦

甲原元簡

中山嵩齋

多田文卿

五島文哉

並河勇三郎

小林元信

波多野玄三

岡部玄章

広瀬元恭

豊島郡隼太

池田蛟平

細中晋吾

豊永快造

豊岡貞吉

正平

藤井文啓

西村桂藏

十松

黒田順正

今本晋平

嘉永元  
五月

丹州龜山藩  
備前岡山  
淡劔須本  
播劔完栗  
撰劔高槻藩  
紀劔本宮  
肥後  
東都淺草  
若劔小浜  
淡劔津名郡下田浦  
尾州  
同  
京堀川  
播劔加東郡家原  
但馬  
撰劔利倉  
阪府谷町  
土劔  
石劔浜田  
野劔宇都宮  
加劔越中泊駅  
下野国宇津宮  
高松百間町  
越前府中

安達藤造  
中西 楨輔  
山本 玄襄  
名島 元吉  
宮本晋太郎  
橋 立元  
谷田 桃吾  
佐々木貞順  
山越 戒三  
山添 玄達  
山崎 總吉  
樋口 三折  
吉井 孝玄  
寛助  
數馬  
耕作  
彦秀  
阿部 隆三  
村上 周甫  
安川 常葺  
松本 元益  
笹山 文哉  
奥村 良哉

嘉永  
西八月

(張紙)

嘉永  
三月

四月念三日  
退塾

小豆島

同

丹波水上郡新郷  
土劔高岡郡須崎  
備中後月郡吉井  
撰有馬郡三田  
南詔盛岡

牧田 東平  
本宮 篤輔  
進藤 三折  
豊永 快藏  
藤井 立節  
河本 文治  
佐々木友甫

浅山諏訪町堀出雲守内  
佐々木貞順右友輔兄也

作劔大庭郡河内村  
東武  
備前岡山  
堀兵庫守内  
豊後佐泊  
撰州伊丹  
常陸行方郡延方  
同 潮来  
備前岡山  
土劔高岡郡深浦浦之内邑  
泉劔界  
丹後宮津藩  
雲州神門郡上之郷  
備前岡山野田屋町

谷口 亮誨  
千葉 道琢  
高山 養源  
武 一圭  
山脇 建隆  
井村 宗平  
高塚 春齋  
三谷 建齋  
久万 泰助  
吉田 周二  
岡 直藏  
勝部 元応  
片山 俊造

石劭浜田

中川 謙蔵

長州菘

白木 英説

和州五条

乾 十郎

撰劭高槻

小野 八郎

撰劭大坂

山本無事郎

樹人洞門譜跋

敏鈍賢愚人、異稟、數年之後鈍化、敏、愚變、賢、而素敏者與賢者、或進或退、故為之師者不得、不汎容、而善誘之也、管子曰終身之計莫如樹人、夫吾樹此人、亦樹諸世、樹芸不、斷施及後昆、今不見一益之奇卉乎、蠶船之所、傳世無復有焉、其及三分根種子也、竟遍天下、老柳翁以醫術、樹芸後進、性又能容物不、挾材之高下、駢植其門、今觀門譜、蓋數百千人、予不知其孰敏孰鈍孰賢孰愚也、其中必有氣稟不、齊者、然翁能培養之、高者愈進下者漸長、各以其所、逐亦樹諸世、是翁之一根一種施及天下後世、矣、豈特終身乎哉、詩曰、瓦、椽、樸、薪、之、櫟、之、言、得材之多、各適其用也、柳翁有焉、

己酉秋七月

靜庵橋本通

印 印